

## 藤田さん「最終講義」

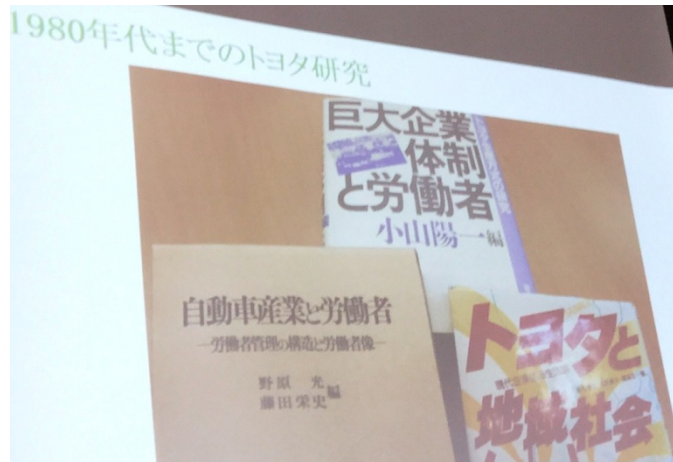
昨日も書いたように、藤田栄史さんの最終講義のテーマは「労働・現代社会・大学」であり、次のような構成であった。1 新設学部「人文社会学部」を楽しむ、2 試行錯誤と元気だけの学部・大学院時代、3 労働社会学、トヨタ研究へ、4 男女平等参画、子ども・子育て支援の施策形成への参加と社会政策への研究視野の拡大、5 研究集団に支えられた研生活、6 地域社会と交流し切り結ぶ教育の発展へ

藤田さんは灘高から京大に進む。私と同年代であり、「大学闘争」と大学の混乱期に学生生活を送る。信州松本とは違い、私にとって憧れの京大は雰囲気や知的環境が異なる。「放し飼い教育」の放牧地のなかで選び取り、「ぼんやりと」学び取ったものが多いようだ。レポートでも紹介した塩崎賢明さん、清水修二さん、岡田知弘さんなどの研究者とも同期であり、「つながり」のようものを感じる。



藤田さんといえば、自動車産業・トヨタ研究である。写真は1980年代までのトヨタ研究の成果である。『トヨタと地域社会』大月書店、1987年には、私も執筆している。日本福祉大学を中心にした地域構造研究会の一員として、藤田さんと共同研究していた頃が懐かしい。野原光さんとの共編『自動車産業と労働者—労働者管理の構造と労働者像』もトヨタ・自動車産業研究の名著だ。

1990年代から2000年代には、新トヨタ・システムとボルボ・ウッデバラ比較の研究へと移る。スウェーデン調査、共同研究なども興味深い。藤田さんはいくつかの学際的な調査研究集団に加わり、共同研究の中心メンバーとして活躍してきた。



藤田さんは研究との関わりで、地域・社会貢献の活動に積極的に参加してきた。名古屋市男女共同

参画懇話会・男女平等参画審議会、名古屋市男女共同参画条例検討委員会、なごや子ども・子育て支援協議会の会長などを歴任してきた。こうした審議会で答申案を事務局ではなく、委員自らが書くことにしてきたとのことだ。審議会の運営としては特筆されるもので、ここにも藤田さんらしさがあらわれている。まだ最終講義の紹介は続く。

(2015年2月23日)